

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0990600017		
法人名	医療法人 修和会		
事業所名	塩野室ハウス		
所在地	栃木県日光市塩野室町1504-20		
自己評価作成日	平成22年11月21日	評価結果市町村受理日	平成23年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成22年12月7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域密着型の施設として、利用者が地域の人たちと楽しく暮らせるよう、色々な行事を通して交流を図っている。その取り組みとして、地域の方も誘いし、親睦会を年に二回開催している。回を重ねるごとに、地域の方々と交流が増えてきている。また、2ヶ月に一回のペースで、日中、夜間想定避難訓練を実施している。消防署より指導も頂き、消火器の使い方や避難経路時の注意点の確認を行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは医療法人が母体となっており、隣接するクリニックや小規模多機能型居宅介護事業所と共に地域医療と介護の連携を目指し設置され、運営されているホームである。開所以来の理念をホームの現状に合わせて、ホームの指針として共有できるものに変更するため、職員全員で協議を重ね見直しをしているところである。地域との関係も自治会活動や運営推進会議等を通じて、地域や自治会、消防団等からもホームへの認識や理解も得られている。年2回、家族や近隣住民にも参加を呼びかけた事業所主催の「親睦会」を開催しており、交流を図っている。また、地域の公民館で「地域防災教室」を開催する等、地域と共に地域ぐるみの防災意識の高揚に取り組んでいる。近隣住民が進んで草むしりや花壇の手入れに来てくれる等、当ホームは地域に開放された、地域の一員という存在になっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在、開所時に作りあげた理念を基に実践している。今後、職員のみならず、目にされた方々が、理解しやすいよう、簡単明瞭な表現の理念をつくりあげていくことを、検討している。	ホームの開所時に「私たちの出発点」と題した理念がつけられており、利用者へのサービス提供の基本となっている。今後、現理念の表現をより簡潔にした新しい理念を全職員での協議により作成することとしている。	ホームにおける課題や地域性等も考慮しながら、全職員で支援の指針となるべき現状にあった簡潔な理念を作成し、更に利用者へのサービスの向上に繋げることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域住民の一員として、甘酒祭り、クリーン大作戦、体育祭見学など、様々な行事に参加、協力させて頂いている。今年は、敬老会で催し物を発表し、好評いただいた。	神社の花壇の花植えや草むしりへの参加や地域の敬老会に参加し、職員が踊りを披露したり、近隣住民が進んで事業所に草むしりに来てくれる等、地域における日常的な交流が図られている。また、ホーム主催の親睦会への地域からの参加も年々増えてきており、地域との相互交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所母体のクリニックで、毎週水曜日、介護相談日を設けている。また、いきいきサロンなどで、認知症予防のための、体操や話をさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、活発な意見交換の場となっている。施設の報告だけにとどまらず、出席者から意見や要望が出されるなど双方向的な会議となっている。よく、地域の行事に誘っていただく。	運営推進会議は隣接する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2ヶ月に1度開催している。会議は家族代表、自治会長、消防団分団長、水利組合長、地域包括支援センター職員、市職員等の参加により、積極的な意見交換がなされる等、サービス向上に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、市担当職員に常に事業所の実情を伝えており、積極的に関わる関係作りが出来ている。また、社会福祉協議会事業への参加や、民生委員等とも、情報を共有しながら、市との連携に努めている。	管理者だけでなくケアマネジャーも市に出向き担当職員との連絡を密にとっている。また、運営推進会議や社会福祉協議会事業、民生委員等を通して市との連携を深めており、事業所の取組みに対して協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は門や玄関の施錠は行っていない。カンファレンスにおいても、身体拘束をしないケアの実践を話し合っている。身体拘束をするのではなく、入居者が抱えている、心理的不安や混乱などを取り除くケアを職員は心掛けている。	職員はカンファレンス会議や研修会等により、身体拘束をしないケアの意義や身体拘束に該当する行為について学んでおり、職員間で確認しあいながら身体拘束のない支援に取り組んでいる。日中は職員の見守りにより、門扉及び玄関の施錠は行っていない。	

塩野室ハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待に関する研修に積極的に参加し、施設内で伝達研修を行い、情報を共有し、その防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が積極的に研修に参加し、伝達研修によって、職員全体で理解は深めているが、活用するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際は丁寧に説明を行い、不安・疑問点はないか必ず確認し、納得してから締結するよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時や親睦会時にお話しをし、意見、要望や提案を聞いている。また、事業所内に、ご意見箱を設置している。	玄関に意見箱を設置している他、家族の面会時や親睦会等の機会を利用して、意見や要望等の把握に努めている。入居者の体調に関する要望等は医師に確認して適切な対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務やカンファレンス時に意見や提案などを聞いている。また、年2回個別に面談の機会があり、意見をもらっている。	毎月のカンファレンス時や年2回実施している個別面談時等に職員からの提案や意見を把握している。また、事務室の壁には職員が疑問や不安な事柄等のメモを自由に貼れるコーナーが設けてあり、職員が随時、意見等を表す事ができる様になっている。出された提案等は、協議のうえで運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与の前に、自己評価・他己評価を行い、賞与に反映している。また、日頃より職員の職務の様子を把握するよう努めており、向上心を持って取り組んでいる職員には、賞与で差をつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所で個別で研修計画を作成しており、その計画に沿って、内部・外部の研修に参加してもらっている。普段の業務も、研修の一環であるということを念頭に置いて、業務にあたるよう、研修計画作成時に説明し理解を得ている。		

塩野室ハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは常に連絡できる体制を取っている。他施設との合同勉強会も話しには出ているが、開催には至っていない。近くの施設と懇親会を開催し、交流の機会を設けることが出来た。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	、入居前の生活の様子を出来るだけ、お聞きし、本人が安心して生活できる、環境づくりに努めている。入居後はアセスメントシートを用いて本人の意向を汲み取り、安心できるような信頼関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの間に、御家族や本人に、施設を見学等にきていただき、要望や不安を受け止めながら関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や御家族に話しをよく聞くようにしているが、他のサービス利用を含めた対応はできていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は掃除、洗濯、料理等の様々な生活リハビリを通して、入居者が本来持っている個性や能力が発揮出来る様に支援しており、その中で、共に過ごし支え合う雰囲気を作れるよう、配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ささいなことでも御家族に相談し、一緒に考えてもらうようにしている。また、面会時には入居者の様子をお伝えするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会を歓迎している。入居者より訴えがあれば、馴染みの場所への外出も出来るが、訴えがなく、あまり支援できていない。	家族や知人等にもできるかぎり来所を呼掛けている他、希望に応じて好きなラーメン店やせんべい店等に同行する等、できるかぎり馴染みの関係が継続できるよう支援に取り組んでいる。	本人からの訴えが少ない現状ではあるが、支援の中や家族等からも本人の趣味趣向や生活歴等の情報を得ることにより、これまで好きだった場所や事柄等を見つけ、馴染みの関係が途切れない支援の取組みに期待したい。

塩野室ハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	落ち着いて過ごせるように、仲の良い人達で外出支援をしたり、一緒に席にしたりと工夫している。利用者の間に職員が入り、利用者同士が関係を築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望がある時は、相談や支援に応じたいと思っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを、話しや記録の中より把握し、カンファレンス時職員で話し合い、情報の共有に努めている。	センター方式による意向の把握に努めると共に、入居者との普段からのコミュニケーションや職員間の意見交換等を通じて、一人ひとりの思いや意向の把握に努めており、無理強いない本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談をいただいた時に、御家族や他事業所や、ケアマネ等、複数の関係者から情報を頂くよう努めている。また、入所後本人の生活から気づいた事柄を、御家族に確認し情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の過ごし方を記録するものがある。センター方式を活用し、職員全体でアセスメントを行い、把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、スタッフそれぞれの意見やアイデアを出し合っ、個別介護計画を作成している。	介護計画は本人及び家族からの要望も把握したうえで、カンファレンス時にケアマネジャーや母体法人クリニックの法人理事長でもある医師、職員等も含めて協議したうえで、現状を反映した介護計画を作成している。介護計画の見直しは4ヶ月毎の定期的なもの他、介護認定の切替時や状態に大きな変化が見られた場合等には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきノートや、個別経過記録、連絡ノート等で情報を共有し、カンファレンスや話し合いを行っている。		

塩野室ハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に取り組んでいない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員やボランティアとは活発な交流がある。消防団の方とは緊急時の連絡方法や、応援など、協力体制が取れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談受付時から、本人及び御家族の意向を組み取るようにしている。母体のクリニックが協力医療機関でもあり、何でも相談できる関係にある。	かかりつけ医は本人及び家族の意向を優先しているが、薬の関係や相談や対応が随時できることから協力医でもある母体法人のクリニックに本人や家族の了解のもとで変更してもらうことが多い。クリニックへの受診の際には職員が付添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での関わり、身体状況、気づき等を看護職へ伝え、相談しながらケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際は、管理者、ケアマネが病院関係者との情報交換を行っている。母体のクリニックを通じて、あらゆる状況に対応できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居申し込み時に、重度化した場合の対応についての説明をさせていただいている。かかりつけ医からも本人・家族等に説明してもらうこともある。	入居時に家族には医療行為が必要になった場合や入浴に2人介助が必要になった場合等の重度化した場合の対応方針を説明している他、かかりつけ医からも説明を行い、家族に了解してもらっている。現在、看取りは行っていない。	入居者の重度化や終末期については、ホームに隣接して設置予定の小規模特養も選択肢の一つになると思うが、今後も、本人や家族の意向を尊重するためにも、ホームでの支援方針の検討を重ね、方針の共有や指針等の作成を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスで確認を行っている。内部研修にて訓練を予定している。		

塩野室ハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間、日中、両方の避難訓練を、隣の事業所と連携して、年6回行っている。地域の消防団に協力の要請をしてあり、了承を得ている。	消防署の指導の下、夜間時等も想定した避難訓練を2ヶ月毎に実施している。運営推進会議等でも地域の消防団に災害時における協力について要請している他、今年の初めには、「地域防災教室」を開催し、地域との協力体制の構築に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誘導の際の声掛けなど、目立たず、さりげない言葉掛けを行っている。馴れ合いの中で、利用者の尊厳を無視した対応にならないよう、定期的に職員間で確認し、心掛けている。	職員は馴染みの関係の中にあっても、一人ひとりの人格や誇りを尊重し、プライバシーに配慮した支援に取り組んでおり、言葉遣い等も職員間で確認し合いながら取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に応じた対応を心掛けている。自己決定できるような言葉掛けや雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に定めておらず、個々のペースを大切にされた対応を心掛けている。無理に誘ったりはせず、その人の思いを尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容師が3ヶ月に一度、来所してもらえるよう手配している。イベントの際など希望される方には化粧をしていただくこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出し、食事の準備、後片付け等を通し、利用者個々の力を活かしながら、自分の役割として関わってもらえるように配慮している。	献立は職員が家庭的な物を念頭におきながら食材によって考えているが、記念の日等には好きなものを食べてもらえる様に工夫をしている。入居者は職員と共に食材の買出しや食事の準備等を行なっている。また、職員も入居者と一緒に同じものを会話を楽しみながら食べており、食事を楽しみや生きがいがいづくりに役立っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の健康状態を、母体のクリニックに相談しながら、その人に合った栄養や水分量を提供するよう努めている。		

塩野室ハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアは特に必要性のある方2名のみ。その他の方は、起床時と就寝前に行ってもらっている。義歯の洗浄(ポリドント)は週2回、職員が支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかめるよう、記録をつけている。排泄前の変化を見逃さず、トイレ誘導が出来るよう、見守りを行っている。	一人ひとりの記録をつけながら排泄パターンや習慣等を把握し、声掛けや誘導により排泄支援を行っている。また、排泄の認識のない入居者もいるが、リハビリパンツやパット等で工夫し、できるだけトイレへ誘導して自立した排泄につながるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の最終排便の日を記録し、母体のクリニックと相談しながら、排便のコントロールを行っている。日頃より、腹部マッサージや運動、お腹に良い食事などの工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一対一で声掛けから最後まで対応し、相手のペースに合わせている。無理には誘わず、本人の意思を尊重している。色々な入浴剤を使用し、視覚でも楽しめるように工夫している。	入浴は3日に1度のペースで午後の時間に職員が1対1で支援しているが、希望によっては毎日でも入浴できる体制になっている。入浴に拒否傾向がある人にはタイミングや声かけを工夫しながら入浴に導く工夫をしている。	浴室は広く、浴槽も大きなものが設置されているが、手すりの大きさや設置状況から、入居者によっては不安定になる恐れもあると思われる事から、安全面を検討していくことに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の、その時の状況や希望に応じて、ソファや居室で、休んでいただいている。また、各居室にエアコンが設置しており、空調調節等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で服薬管理ファイルを作成し、情報を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調や気分に合わせて、炊事、掃除、洗濯などお誘いし、一緒に行ってもらっている。また、生活暦を参考にして、得意なこと・興味関心のあることを用いて、気分転換できる支援に努めている。		



塩野室ハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物などに、日頃から外出している。利用者の希望があれば、家族や地域の方にも協力いただける体制は取っている。	日々、ホーム周辺へ散歩に出かけたり、買い物等に出かけている。また、月毎にレクリエーション担当職員が計画し、日光方面への紅葉見物や県庁内のレストラン等にも出かけている。地域行事にも駐車場を確保してもらい、出かける様にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の財布は用意しているが、お金の管理が出来の方が、ごく一部のため、職員が管理し、欲しい物、食べたい物等は、一緒に買い物をして、選んで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頂いた手紙と一緒に読むことや、不安な時は、家族への電話をすすめるようにしている。家族が面会に来られるので、あまり訴えはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示板に写真や、季節に合わせた作品を展示するようにしている。リビングは、日中少し日陰になる時もあるが、日があたる時は、日光浴されたりと、ゆったり出来る空間になっている。	共用空間の壁には入居者の写真や作品が飾られ、季節の花等も置かれている。リビングの窓は大きく明るい日差しが差込み、温度管理や換気も適切に管理されており、不快な臭い等は感じられない。温かいお茶の入ったサーバーも置かれ、ソファー等でくつろげる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビング内にソファを設置し、自由に使用してもらえるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族と相談し、本人が自宅で使用していたものを、持ってきてもらっている。	居室にはカーテンとエアコンが備付けられているが、それ以外は馴染みの物等を自由に持ち込んでもらえる様にしており、入居者は家具類や仏壇、家族の写真等を持ち込んでいる。清掃は曜日を決めて職員と入居者が一緒に清掃しており、清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体能力に合わせ、靴や椅子などを選んでいく。手摺りも必要時には、増設可能である。職員と一緒にやれば出来ること、いなくても出来る事を考えて提供している。		